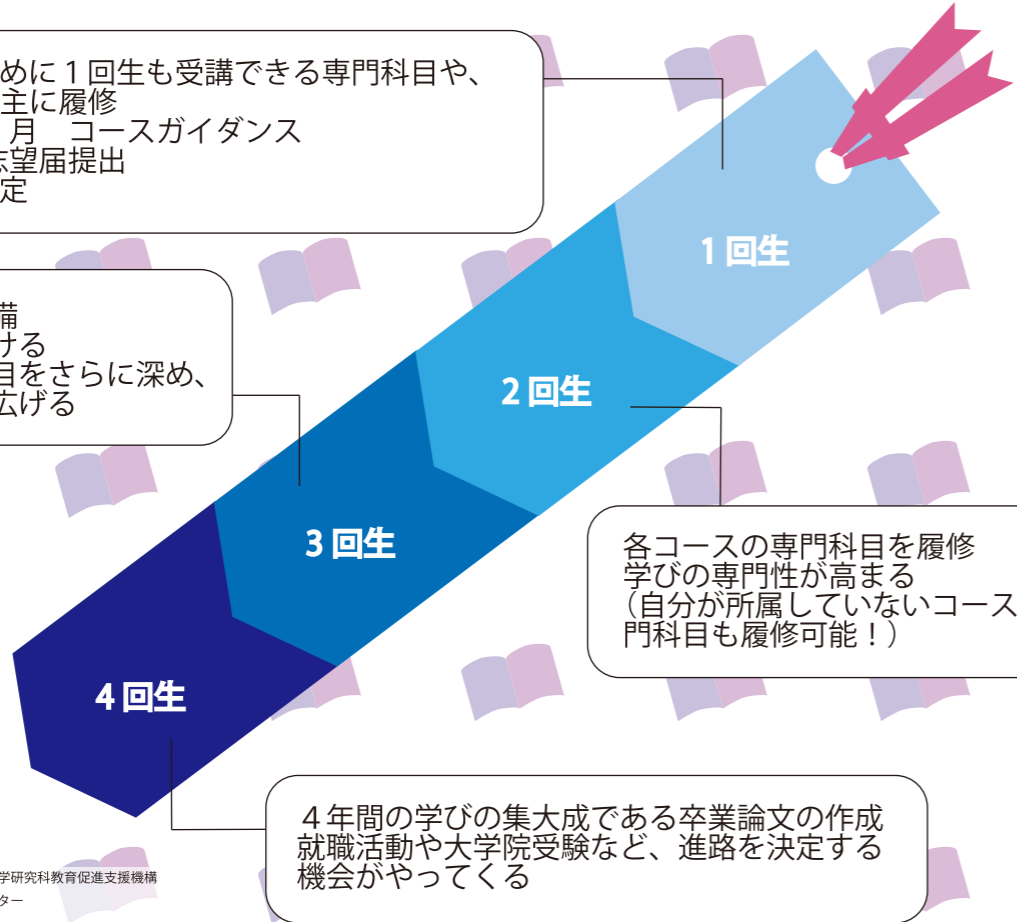


コース選択のために1回生も受講できる専門科目や、全学共通科目を主に履修
 6月・9月・11月 コースガイダンス
 12月 コース志望届提出
 1月 コース決定

卒業論文作成の準備
 少人数で指導を受ける
 各コースの専門科目をさらに深め、他分野にも学びを広げる



各コースの専門科目を履修
 学びの専門性が高まる
 (自分が所属していないコースの専門科目も履修可能!)

4年間の学びの集大成である卒業論文の作成
 就職活動や大学院受験など、進路を決定する機会がやってくる

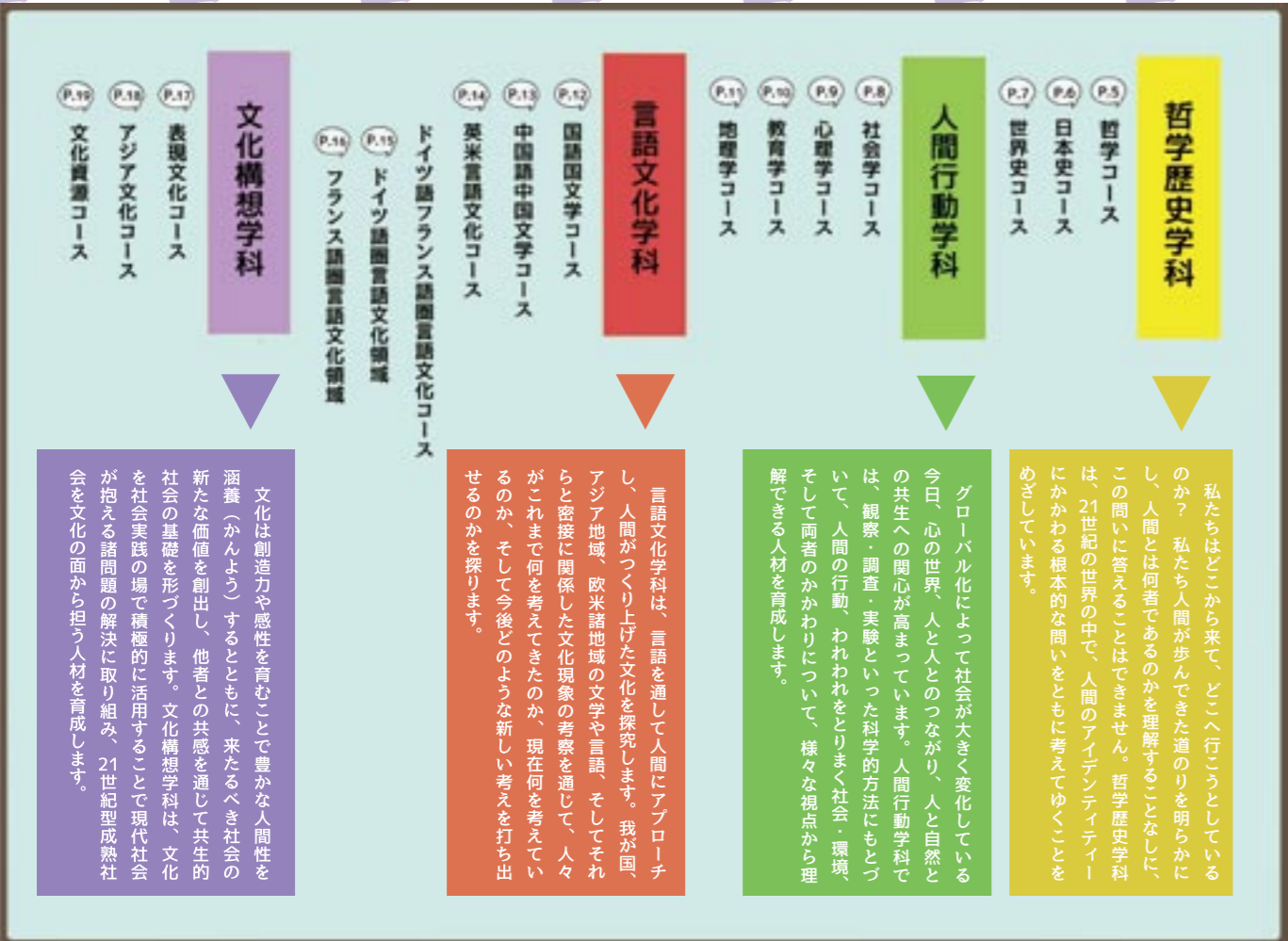
それぞれの道へ!



大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構
 公式マスコットキャラクター
 リてらちゃん

4年間のカリキュラム

文学部組織図



文化構想学科

- P.17 表現文化コース
- P.18 アジア文化コース
- P.19 文化資源コース

文化は創造力や感性を育むことで豊かな人間性を涵養(かんよう)するとともに、来たるべき社会の新たな価値を創出し、他者との共感を通じて共生的社会の基礎を形づくりまします。文化構想学科は、文化を社会実践の場で積極的に活用することで現代社会が抱える諸問題の解決に取り組み、21世紀型成熟社会を文化の面から担う人材を育成します。

言語文化学科

- P.12 国語国文学コース
- P.13 中国語中国文学コース
- P.14 英米言語文化コース
- P.15 ドイツ語フランス語圏言語文化コース
- P.16 フランス語圏言語文化領域

言語文化学科は、言語を通して人間にアプローチし、人間が作り上げた文化を探求します。我が国、アジア地域、欧米諸地域の文学や言語、そしてそれらと密接に関係した文化現象の考察を通じて、人々がこれまで何を考えてきたのか、現在何を考えているのか、そして今後どのような新しい考えを打ち出せるのかを探ります。

人間行動学科

- P.8 社会学コース
- P.9 心理学コース
- P.10 教育学コース
- P.11 地理学コース

グローバル化によって社会が大きく変化している今日、心の世界、人と人とのつながり、人と自然との共生への関心が高まっています。人間行動学科では、観察・調査・実験といった科学的方法にもとづいて、人間の行動、われわれをとりまく社会・環境、そして両者のかかわりについて、様々な視点から理解できる人材を育成します。

哲学歴史学科

- P.5 哲学コース
- P.6 日本史コース
- P.7 世界史コース

私たちはどこから来て、どこへ行くかとしているのか? 私たち人間が歩んできた道のりを明らかにし、人間とは何者であるのかを理解することなしに、この問いに答えることはできません。哲学歴史学科は、21世紀の世界の中で、人間のアイデンティティにかかわる根本的な問いをともに考えてゆくことをめざしています。

学部長インタビュー



文学部長
 こばやし なおき
小林 直樹 先生

◆市大文学部の魅力・特徴はなんですか?

まず、多様な学問分野がそろっていることです。文学部では、人間や、人間が作り出した文化・歴史・社会などを研究対象としています。学問分野が多いほど、それだけ多くの対象に様々なアプローチで迫ることが出来ます。今年度からは、文化構想学科という新しい学科ができて、さらに選択肢が広がりました。基礎的な性格の学問分野から応用的、学際的な性格の分野まで、学生の幅広い関心に応えることが出来ます。選択肢が多いということは何といっても魅力だと思えます。

また、少人数教育で教員と学生の距離が近いのもこの大学の特色です。教員と親しくコミュニケーションを取れる環境は、大学での学びを深めるために大きなメリットであるといえます。

◆市大文学部の学生の印象はどうですか?

真面目でバランスがいいですね。また、様々な性格の学問分野を研究できる学部であるということから、それに応じた多様な学生が集まっている印象があります。

◆市大文学部ではどのような力が身につきますか?

人間、つまり他者を理解する力です。様々な言語を学ぶことも、異なる地域の文化や過去の歴史と対話することも、社会の仕組みを調べることも、人間の行動を観察することも、そこから得られるものは、行き着くところ、他者を理解する力であるといっても過言ではありません。これはとても根源的な力です。

さらに、文学部での学びの総決算は卒業論文です。自分が地道に調べ考察したことを、独りよがりになることなく、誰もが理解できるように、論理的に説明する。非常に骨の折れる作業ですが、それゆえに書き上げると得られるものも大きい。先行研究の読解力、情報処理能力、判断力、論理的思考力、それに誰もが理解できるように書くためには一度他者の視点に立つ必要がありますから、自己を客観視する力、そしてもちろん文章力、すべてが鍛えられます。

◆文学部の存在意義はなんですか?

文学部で学んだことはすぐには社会の役に立たないとよく言われます。しかし、すでに触れたように、文学部の学びで身につくのは、人間にとつての根源的な力です。一度身についたら失われることはありません。んし、実はそれこそが社会や人生の

様々な局面でほんとうに役立つものなのです。薬に例えると「漢方薬」です。新薬は即効性がありますが、効果が限定的で、服用しすぎると副作用もあります。しかし、「漢方薬」は、即効性はないものの、長く続けることでじっくりと効き目が現れますし、病氣自体を治すだけでなく、体質改善という根本的な働きがあります。文学部の学びも同じで、長期的に見れば、どこにでも応用できて役に立つ真に重要な力が身につくといえるのです。

◆どんな学生に来てほしいですか?

さきほどお話ししましたが、文学部には様々な学問分野があるので、それに応じていろいろなタイプの人を受け入れる余地があります。だから、まずは多様な人に来てほしいと思います。ただ、それに加えていえば、コアな関心を持っていて、かつそこに閉じこもるのではなく、外に開かれた柔軟な姿勢を持った人ですね。それから、やはり本を読むのが好きな人。本は自らの関心や問題意識の形成に役立ちますから、大文学部の主体的、積極的な学びにつながっていきます。

いずれにしても、若くみずみずしいみなさんの力に私たちも刺激を受けながら、ともに学んでいきたいですね。

目次

○学部長インタビュー	p.2
○市大文	p.3
○4年間のカリキュラム	p.3
○コース選択制度	p.4
○コース紹介	p.5
○人間行動学科	p.8
○言語文化学科	p.8
○文化構想学科	p.11
○コース選択体験談	p.12
○大学生生活	p.17
○大学生の一日	p.17
○留学体験談	p.19
○進路・資格	p.20
○受験体験談	p.21
○大学生活	p.22
○学生アンケート	p.22
○学生座談会	p.23
○文学部・文学研究科教育促進支援機構	p.24
○編集後記	p.27
	p.28
	p.27
	p.26
	p.24
	p.22
	p.21
	p.20
	p.17
	p.12
	p.8
	p.5
	p.4
	p.3
	p.2